

## 岐阜県立岐阜工業高等学校

学校長 山田 和正

学校住所 岐阜県羽島郡笠松町常盤町1700 電話058-387-4141

1 会の名称 学校評議委員会

2 会の構成 委 員 岩佐 洋二 株式会社 岡本 常務  
大橋 仁壽 株式会社 大垣鐵工所 取締役社長  
川島 裕美 地域住民代表  
堤 博幸 名古屋鉄道株式会社 笠松駅長  
南谷 清美 地域住民代表

(委員名は五十音順)

学校側	山田 和正	校長	森 保	教務主任
	沢井 和弘	副校長	宮浦 英夫	生徒指導主事
	松原 行雄	事務部長	牧村 高憲	進路指導主事
	高瀬 仁士	教頭(全)	川島 俊夫	工業部長
	高橋 信行	教頭(全)		

3 会の目的 学校運営等について学校外の有識者等から幅広く意見を聞き、本校教育の改善・充実に資するとともに、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを目指す。

4 会の開催 平成22年2月16日(火) 16:00~17:30 岐阜工業高等学校 校長室  
委員4名、育友会長と学校側9名が出席

5 会の概要

**主テーマ 工業高校に期待するもの**

生徒研究発表会の参観

各学科3年生の代表が課題研究などで取り組んできた研究の成果を全校生徒の前で発表する発表会を参観していただいた。生徒の熱の入った発表に耳を傾けていただきました。発表会には、企業や大学、中学校からも70名の参観をいただきました。



## 感想（合評会より抜粋）

- ・まとめがしっかりできている。
- ・考える力、ものを見る力を発表を通じて感じさせていただきました。
- ・ものを作るだけでなく考える力等をどう伸ばすかを本校でも考えていかねばならないと感じました。
- ・3年程見させてもらっている。生徒も一生懸命にやっている。
- ・計画・分析・次の課題を見つけることの基礎を発表会の中で学んでいくことは、高校の学習として良いことである。
- ・すべてがうまくいくわけではないのでチームワークが大切で、最後に完成して喜べるのは今日の日ではなかったかなと思います。



## 学校の教育現状について 報告

学校長より ・課題研究は想像力と問題解決能力を身につけさせるのが目的である。

- ・英・数・国の力を身につけさせる問題には我々も頭を痛めているが、少しでも向上するように努めていきたい。

高瀬教頭より 自己評価を踏まえて

基礎基本の徹底指導と個の能力に応じた習熟度別授業や補習等によるボトムアップ及び全国大会で活躍できる技術技能の修得ができた。様々な国家資格、技能検定等に多数合格した。数多くの部活動が県大会優勝などし、東海大会、全国大会でも活躍した。しかし、なかには工業教育になじめない子もあり、その対応の研究が必要である。

## 来年度に期待するもの

- ・7限目の英語と数学の授業について、工業高校生が苦手としている語学力不足をよく検討してもらいたい。塾へ行けないような人にとっては大切な授業である。7限を楽しくやれるように工夫して欲しい。
- ・進路指導ではH19年度は卒業生の不満が0であるが、その後増えている。勤務形態や手当で、求人票と異なる部分があると不満が出るようだ。適切な進路指導に努めてほしい。
- ・英語や数学が得意でなくても大学へ行けると言うことが当校の魅力であると思う。工業高校の特色を活かした進学指導をお願いしたい。大学の工学部で工業高校出身者は専門知識が深く、よく頑張っていた。
- ・生徒の学力アップには教員のレベルアップが不可欠である。それはスポーツの分野についても同様である。
- ・教育とは教えることではなく、本人のもつ素養を引き出すことである。
- ・マナーの問題をしっかりと教えてやる必要はある。TPOとバランスをよく考えるように指導すべきだ。オリンピックの国保選手のように周りが教えてやらないといつまでもわからないままだ。若者と接するには根気が必要だ。